

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 3 月 16 日 (2017.3.16)

【公表番号】特表 2016-513738 (P2016-513738A)

【公表日】平成 28 年 5 月 16 日 (2016.5.16)

【年通号数】公開・登録公報 2016-029

【出願番号】特願 2016-502913 (P2016-502913)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/77 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 15/12 (2006.01)

A 6 1 P 19/08 (2006.01)

A 6 1 P 19/10 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/77

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 15/12

A 6 1 P 19/08

A 6 1 P 19/10

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 2 月 13 日 (2017.2.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

骨障害を発症するリスクのある動物を処置するための組成物であって、有効用量のポリエチレングリコールを包含する、組成物。

【請求項 2】

胃腸障害を発症するリスクのある動物を処置するための組成物であって、有効用量のポリエチレングリコールを包含する、組成物。

【請求項 3】

前記動物が、イヌ、ネコ、ウマ、ヒツジ、ヤギ、ウシ、ブタ、鶏、シチメンチョウ、およびヒトからなる群より選択される、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

異常状態は、炎症性腸疾患、潰瘍性大腸炎、閉経期、男性更年期、性腺機能低下症、骨減少症、骨粗鬆症、慢性感染症、および免疫学的ストレスからなる群より選択される、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記有効用量は経口投与される、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記有効用量は直腸投与される、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記有効用量は注入により腸に直接投与される、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記有効用量は外科的灌注により腸に直接投与される、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記有効用量は骨形成を増大させるのに十分である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記有効用量は骨吸収を減少させるのに十分である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記有効用量は骨形成を増大させ且つ骨吸収を減少させるのに十分である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記有効用量は成長能力を増大させるのに十分である、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記有効用量は細菌負荷を減少させるのに十分である、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 14】

前記有効用量は成長能力を増大させ且つ細菌負荷を減少させるのに十分である、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 15】

前記ポリエチレンは少なくとも 3,500 ダルトンの平均分子量を有する、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 16】

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 8,000 ダルトンの平均分子量を有する、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 17】

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 15,000 ダルトンの平均分子量を有する、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 18】

前記ポリエチレングリコールは MDY-1001 である、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 19】

骨障害を発症するリスクのある動物を処置するための有効用量のポリエチレングリコールを備えたキット。

【請求項 20】

胃腸障害を発症するリスクのある動物を処置するための有効用量のポリエチレングリコールを備えたキット。

【請求項 21】

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 3,500 ダルトンの平均分子量を有する、請求項 19 または 20 に記載のキット。

【請求項 22】

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 8,000 ダルトンの平均分子量を有する、請求項 19 または 20 に記載のキット。

【請求項 23】

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 15,000 ダルトンの平均分子量を有する、請求項 19 または 20 に記載のキット。

【請求項 24】

前記ポリエチレングリコールは MDY-1001 である、請求項 19 または 20 に記載のキット。

【請求項 25】

前記用量を、必要とする動物に送達するための手段を備える、請求項 19 または 20 に記載のキット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

本発明の他の特徴および利点は、図面および実施例を含む以下の詳細な説明を参照することによってより良く理解されるであろう。

本発明の実施形態において、例えば以下の項目が提供される。

(項目 1)

骨障害を発症するリスクのある動物を処置するための方法であって、有効用量のポリエチレングリコールを、処置を必要とする動物に投与することを包含する、方法。

(項目 2)

胃腸障害を発症するリスクのある動物を処置するための方法であって、有効用量のポリエチレングリコールを、処置を必要とする動物に投与することを包含する、方法。

(項目 3)

前記動物が、イヌ、ネコ、ウマ、ヒツジ、ヤギ、ウシ、ブタ、鶏、シチメンチョウ、およびヒトからなる群より選択される、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 4)

異常状態は、炎症性腸疾患、潰瘍性大腸炎、閉経期、男性更年期、性腺機能低下症、骨減少症、骨粗鬆症、慢性感染症、および免疫学的ストレスからなる群より選択される、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 5)

前記有効用量は経口投与される、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 6)

前記有効用量は直腸投与される、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 7)

前記有効用量は注入により腸に直接投与される、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 8)

前記有効用量は外科的灌注により腸に直接投与される、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 9)

前記有効用量は骨形成を増大させるのに十分である、項目 1 に記載の方法。

(項目 10)

前記有効用量は骨吸収を減少させるのに十分である、項目 1 に記載の方法。

(項目 11)

前記有効用量は骨形成を増大させ且つ骨吸収を減少させるのに十分である、項目 1 に記載の方法。

(項目 12)

前記有効用量は成長能力を増大させるのに十分である、項目 2 に記載の方法。

(項目 13)

前記有効用量は細菌負荷を減少させるのに十分である、項目 2 に記載の方法。

(項目 14)

前記有効用量は成長能力を増大させ且つ細菌負荷を減少させるのに十分である、項目 2 に記載の方法。

(項目 15)

前記ポリエチレンは少なくとも 3,500 ダルトンの平均分子量を有する、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 1 6)

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 8 , 0 0 0 ダルトンの平均分子量を有する、
項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 1 7)

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 1 5 , 0 0 0 ダルトンの平均分子量を有する、
項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 1 8)

前記ポリエチレングリコールは M D Y - 1 0 0 1 である、項目 1 または 2 に記載の方法
。

(項目 1 9)

骨障害を発症するリスクのある動物を処置するための有効用量のポリエチレングリコー
ルを備えたキット。

(項目 2 0)

胃腸障害を発症するリスクのある動物を処置するための有効用量のポリエチレングリコ
ールを備えたキット。

(項目 2 1)

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 3 , 5 0 0 ダルトンの平均分子量を有する、
項目 1 9 または 2 0 に記載のキット。

(項目 2 2)

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 8 , 0 0 0 ダルトンの平均分子量を有する、
項目 1 9 または 2 0 に記載のキット。

(項目 2 3)

前記ポリエチレングリコールは少なくとも 1 5 , 0 0 0 ダルトンの平均分子量を有する、
項目 1 9 または 2 0 に記載のキット。

(項目 2 4)

前記ポリエチレングリコールは M D Y - 1 0 0 1 である、項目 1 9 または 2 0 に記載の
キット。

(項目 2 5)

前記用量を、必要とする動物に送達するための手段を備える、項目 1 9 または 2 0 に記
載のキット。